

令和4年度 学校図書館基本計画・評価シート

足立区立 皿沼小学校 校長 加藤 雅弘

1 学校教育目標

- ① 進んで 学ぶ子
- ② 仲よく 助け合う子
- ③ 明るい 元気な子

2 学校図書館の目標・ねらい 一身に付けさせたい資質・能力、意欲・態度一

- ① 読書に親しませ、豊かな心情と幅広い知識を身に付けさせる。
- ② 多様な学習や指導を通して、情報収集・選択・活用、課題解決する能力を伸ばす。
- ③ 読書活動の充実を通して、言語能力の育成・向上を図る。
- ④ 学校図書館及び校内の図書に関わる環境を整え、自主的・自発的に読書する習慣を身に付けさせる。

3 学校図書館の現状（令和3年度末）

蔵書状況	① 蔵書数 9432冊(蔵書基準冊数 7680冊)／蔵書率 122.8%(前年度119.5%)									
	② 新規購入図書 354冊／廃棄図書 106冊／増減冊数 248冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学8類
蔵書構成割合	2%	1%	8%	6%	10%	4%	4%	6%	4%	56%
*国基準	6%	3%	16%	10%	16%	6%	5%	8%	5%	25%
利活用の状況	① 開館時間：授業時、月・火・木・金曜日（昼休） 学校図書館支援員勤務日（中休、昼休、放課後） （前年度からの変更 あり <u>なし</u> ）									
	② 児童一人あたりの年間平均貸出冊数 38.34冊（前年度：32.97冊）									
	③ 1か月に2冊以上読む児童 65.9%（前年度：60.9%）									

（令和4年度末）

蔵書状況	① 蔵書数 9765冊(蔵書基準冊数 7000冊)／蔵書率 139.5%									
	② 新規購入図書 524冊／廃棄図書 191冊／増減冊数 333冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	2.2%	0.7%	7.5%	6.3%	10.5%	4.6%	3%	5.4%	4%	55.7%
*国基準	6%	3%	16%	10%	16%	6%	5%	8%	5%	25%
利活用の状況	② 開館時間：（前年度からの変更 あり・ <u>なし</u> ）									
	③ 児童一人あたりの年間平均貸出冊数 34.6冊（前年度末：38.34冊）									
	④ 1か月に2冊以上読む児童 68.5%（前年度末：65.9%）									

4 目標達成に向けた今年度の重点指導事項・具体的取り組み

第1学年	① 易しい読み物に興味をもち、楽しんで読書しようとする態度を育てる。 ② 学校図書館の利用の仕方を知り、きまりを守って利用する態度を育てる。	
今年度の成果目標		達成基準
① 学校図書館の本を利用し、読書をする経験を重ねる。 ② 学校図書館を使う授業により、調べる楽しさを知る。 ③ 学校図書館の利用法とマナー、図書支援員の存在を知る。		① 各クラス年20回以上、読書等の授業を学校図書館で行う。 ② 読書旬間を利用して、年間一人あたり40冊以上の本を読む。 ③ 学校図書館オリエンテーションを実施した学級が100%
目標達成状況		
①年間20回以上学校図書館を活用し、読書の経験を積み重ねた。 ②読んだ本の冊数には個人差があったが、40冊以上の本を読んだ児童は、80%ぐらいであった。 ③担任が学校図書館の利用とマナーについてのオリエンテーションを初日に実施した。		

第2学年	① いろいろな読み物に興味をもち、楽しんで読書しようとする態度を育てる。 ② 調べる楽しさを知り、学校図書館の正しい利用の仕方を身に付ける。
今年度の成果目標	達成基準
① 自分の興味のある本を探して、読書することができる。 ② 図鑑や科学的な読み物について読書し、資料の活用ができる。 ③ 学校図書館の利用法とマナー、レファレンスサービスを知る。	① 各クラス年 20 回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行う。 ② 読書旬間を利用して、年間一人あたり 40 冊以上の本を読む。 ③ 資料の中から目的に合わせて情報を選び、まとめる活動を 100%。
目標達成状況	
①各クラスとも年間 20 回以上学校図書館を活用し、読書の経験を積み重ねた。 ② 40 冊以上の本を読んだ児童は、90% ぐらいであった。 ③読書中心で、情報収集しまとめる活動は 1 回しか行うことができなかった。	
第3学年	① いろいろな読み物に興味をもち、幅広く読書しようとする態度を育てる。 ② 進んで学校図書館を利用する態度を養い、資料や情報を集めて活用できるようにする。
今年度の成果目標	達成基準
① 自分の興味のある本だけでなく、それに関連する本についても読書することができる。 ② 目的に応じて、自分で資料を集めたり、レファレンスサービスを活用したりできる。 ③ 資料から分かったことをまとめることができる。	① 各クラス年 15 回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行う。 ② 読書旬間を利用して、年間一人あたり 30 冊以上の本を読む。 ③ 調べる学習コンクールに参加する学年児童の割合が 60%以上
目標達成状況	
①各クラスとも 20 回以上学校図書館を活用し、読書の幅を広げることができた。 ②本を 30 冊以上読んだ児童は 80% 程度であった。レファレンスサービスを活用することもできた。 ③調べる学習コンクールに参加した児童は少なかったが、係活動や国語の学習で資料を使い、調べ学習をした。	
第4学年	① いろいろな種類の本を読み、幅広く読書しようとする態度を育てる。 ② 進んで学校図書館を利用する態度を養い、多様な資料や情報を収集・選択・活用することができるようにする。
今年度の成果目標	達成基準
① 分類の仕方を知り、自分の興味のある本だけでなく、今まで興味のなかった本についても読書することができる。 ② 目的に応じて、複数の資料の中から必要な資料を選ぶことができる。 ③ 資料から分かったことをまとめ、相手や目的に合わせて説明することができる。	① 各クラス年 15 回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行う。 ② 読書旬間を利用して、年間一人あたり 30 冊以上の本を読む。 ③ 調べる学習コンクールに参加する学年児童の割合が 60%以上
目標達成状況	
①各クラスとも図書館の活用は少し目標に届かなかったが様々な本に触れ、幅を広げることができた。 ② 60% 以上の児童が年間 30 冊を達成することができた。調べ学習にも取り組むことができた。 ③調べる学習コンクールに参加した児童は少なかったが、調べ学習の際に、図書館の本を使用しまとめることができた。また、相手に合わせて発表することができた、	
第5学年	① 適切な読み物を選び、読書を通して考えを広めたり深めたりしようとする態度を育てる。 ② 学校図書館を積極的に利用する態度を養い、計画的に資料や情報を収集し、適切に活用することができるようにする。
今年度の成果目標	達成基準
① 興味のある事柄について、適切な本や新聞等を選び、読書することができる。 ② 引用の仕方や情報モラルなど、情報の取り扱い方について知る。 ③ 複数の本や新聞等から必要な情報を取捨選択し、構成を工夫してまとめ、場に応じて説明することができる。	① 各クラス年 10 回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行う。 ② 年間一人あたり 25 冊以上の本を読む。 ③ 調べる学習コンクールに参加する学年児童の割合が 70%以上

目標達成状況	
①学校図書館を上手く活用できず、80%前後であった。 ②年間25冊以上の本を読んだ児童は50%ぐらいであった。新聞等からの情報収集や情報の取り扱いについては、学習することができた。 ③調べる学習コンクールに参加した児童は少なかったが、情報を選択しまとめ発表する活動を行った。	
第6学年	① 適切な読み物を選び、読書を通して考えを広めたり深めたりしようとする態度を育てる。 ② 目的に応じて、学校図書館を適切に利用し、主体的・協力的に情報を活用して問題解決ができるようにする。
今年度の成果目標	達成基準
① 興味のある事柄について、適切な本や新聞等を選び、読書することができる。 ② 問題解決に向けて、協力して学校図書館を利用し、集めた情報の有効性・必要性・信頼性を友達と話し合うことができる。 ③ 複数の資料や情報の中から適切なものを選び、事実・引用・要約などと自分の考えを区別してまとめ、説明することができる。	① 各クラス年10回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行う。 ② 年間一人あたり25冊以上の本を読む。 ③ 調べる学習コンクールに参加する学年児童の割合が70%以上
目標達成状況	
①読書や探究活動で10回以上学校図書館を活用することができた。読書の幅も広がり、自主的に活用することができた。 ②年間25冊以上の本を読んだ児童は50%であった。読書の幅が広がり、ページ数の多い本を手にとることが増えたため、冊数は少なくなってしまった。 ③調べる学習コンクールに参加した児童は少なかったが、情報と自分の考えを区別してまとめることはできた。	

5 学校図書館環境整備に関する取組計画・方針及び成果・効果	
取組計画・方針	成果・効果
【蔵書・配架等に関すること】 ① 既存の寄贈本や新規購入図書の受け入れ、登録作業を8月中に完了させる。 ② 蔵書状況を確認し、各分類の本が充実するようにする。 ③ 各教科との関連を図り、資料を充実させる。	① 状況に合わせ、随時新しい図書を受け入れた。 ② 児童の学習に合わせ必要な分類を充実させた。 ③ 注文された資料を貸し出すことができた。
【学校図書館支援員との連携・協働】 ① 学校図書館オリエンテーションの実施やブックトーク等、支援員の積極的な連携・協働に取り組む。そのために月1回は打ち合わせを行い、情報共有をする。 ② 調べ学習をはじめ、授業に必要な教材や資料について積極的に支援員への相談や情報交換を行う。 ③ 司書教諭を中心に、支援員やボランティアとの連携を深め、共同して運営に当たる。	① 月に1回の打ち合わせで、情報を共有し学校のスケジュールに合わせ、オリエンテーションやブックトークなどを行った。 ② 支援員のおかげで学習に合わせて図書を活用することができた。 ③ ボランティアさんに読み聞かせをしていただいた。
【その他】 ① 長期休業中は貸し出し冊数を一人3冊までを可とする。(通常2冊) ② クラス貸し出しを行い、学校図書館以外の場でも多くの本に親しめるようにする。	① 貸し出しの数を増やすだけでなく、夏季休業中にも図書館を開放し、貸し出しを行った。 ② クラス貸し出しを行い、教室でも様々な本を読むことができた。

6 学校図書館運営全体に関する自己評価（成果・課題・改善の方向性等）

教師や児童の声をよく聞いて運営をした。児童が使いやすいように学習や行事にあった本の展示をしたり、教師も使いやすいように増書のアンケートをとったりと学校の状況に合わせてより効果的に活用できるように様々な取り組みをした。それにより、児童の図書館を利用したいという意欲は向上した。その一方で、中休みや昼休みの開館の日数が少なく児童が利用したいときに利用できないことが課題として残った。今後は、委員会などと連携してより効果的に活用できるよう使用できる時間を増やしていきたい。

7 学校図書館の取り組みに対する評価・要望等（学校関係者から）

普段の読書活動・貸し出し活動を促進するため全クラスにブックトークを実施した。また、お昼の放送で読み聞かせをするなど本への興味を引き出す活動はとても効果的だった。次年度は、このような取り組みの機会をさらに増やしていきたい。さらに、学習に合わせた図書の活用も充実していて、教師が進めなくても児童が自主的に資料となる本を見つけ借りてくることがあった。成果をあげるための活動をさらに広げていきたい。